

令和7年度第4回 太田市1%まちづくり会議 議事概要

会議の名称	令和7年度第4回1%まちづくり会議
開催日時	令和7年6月26日(木) 18:00~20:20
開催場所	太田市役所 5階 5A 会議室
出席委員 (代表氏名)	1%まちづくり会議 佐藤 広大 委員長 他11名

1. 開会

2. 挨拶

佐藤委員長より挨拶

3. 協議事項

(1) 4次募集審査について(申請5件 No.125~129)

ヒアリング

No.129 地域文化継承と交流を深める秋祭り事業(藤久良町二区)

団体:昨年度は、藤久良町二区単独で区費と個人負担で秋祭りを運営した成功例があり、その中で 1%まちづくり事業補助金を使ったらという声があり、今年度は二区と三区の連携により規模を拡大し開催したい。

事業計画としては、子供たちからお年寄りの交流として、音楽や文化の継承など、そういうものを使って、お祭りだけでなく、世代を超えた地域のステージとして展開するとした。

事業効果としては、地域のお祭りという形を通じて、世代間の交流、地域の一体化、文化の継承等を促進するものであって、短期的、中長期的にも、地域の多目的な効果をもたらすと考えている。まず、子供たちにとっては、バイオリン演奏や金魚すくい等を通し、「地域の中で活躍する喜び、感謝される経験」の機会となる。これにより、みずからの地域へ関心と誇りが生まれ、世代の担い手づくりと繋がる。また高齢者にとっては、孤立を防ぎ、地域活動の意識を再認識する機会となる。若手世代には運営側に関わってもらうことによって、地域リーダー層の育成にも繋がる。今年度は二区と三区の合同だが、今後は、藤久良全区域(一区~四区)を巻き込んだ事業と考え、連鎖効果を期待している。また、開催記録や収支報告を文書化・共有することで、来年度の担当者が安定して引き継げる体制を整え、継続性と自走力を備えることができると考える。

本事業は、単発の催しにとどまらず、地域住民の交流促進、世代継承、地域の誇りづくりに直結する効果を持つ事業と考えている。

藤久良町二区は、地域住民の繋がりを重視し、敬老会、防災訓練、環境美化活動を通じて、地域の連帯感を育んできた。今回の取り組みは自治会集合によるコミュニティ活性化を目的とし、特に地域性を考慮して、次のような、現状を課題に向き合う。

少子化が進み、育成会、子供会の会員が減少、老若男女の交流も減少しつつある中、歯止めをかけ、力を合わせることで地域力の増強と文化交流の活性化を目指す。

世帯数の減少により、一人暮らし・空き家が増加、家はあるのに住む人がいない、地域としての魅力が不足しているという状態に陥っている。新たな住宅の入居もある一方で、自治会の魅力を十分に伝えきれていないのも事実で、古くからの住民と新しい世代の間で、考え方や行動力に違いがあるが、お祭りという文化行事に関するノウハウは共有できると考えている。実際には起爆剤となるマンパワーが不足しており、今回のように、他区と共同参画によって解消を図る必要がある。自治会勧誘時に魅力を表現しきれない現状に対して、お祭りを通じて、地域の魅力を伝える起爆剤として効果を期待している。ただし、高齢者や参加が困難な方への事情にも十分配慮して、運営を行う。こうした背景から、三区と合同での秋祭り開催を通じて、地域内外の協力と行政の後押しを経ながら、持続可能な地域活動の基盤づくりを目指したい。

委員：予算が今年の3倍になっている。祭りの目玉は何か。

団体：世代間交流と、地域性。藤久良町二区は約190世帯、三区四区は140世帯と120世帯、一区は100世帯を切っているので、藤久良全体を取り込むことを起爆剤と考えた結果、3倍と考えた。

昨年は事業ではなかった。催しという形で、区の実費と皆様の寄付でやった。その前は有志会という、小さいコミュニティで集まっていただけで、コロナ禍で約6年間お祭りを一切やらず、地域のお金が残っていたので、皆さんの同意を得て、昨年やらせていただいた結果、かなりにぎやかにできたと思う。今年度新しい事業として、初めて申請させていただきたい。

委員：役員さんが変わったとき、これを継続するか、今後どのような体制をとるか。

団体：この事業は、藤久良町二区単体ではなくて、一～四区全てのリーダーが必要と考えており、かつ、藤公園が会場になるが、この藤公園はたまたま藤久良町二区が使わせていただいてそこに集会所があるもので、この藤公園を活性化できないかというところで、今後は一～四区までの方をリーダーとして出して、その事業を継続できるよう、今回1度開催できればその基盤ができると思い、若い方も携わっていただいているので、継続性の反映というか、それを培うことができると思っている。また、一区も三区も四区も、区長・区長代理をやる人もいない状態に陥っている。私はたまたま選出された若い区長だが、若い人が引っ張っていくということが効果の狙いでもあると思っているので、そういった意味で今私がスタートしたものを、私ども若い世代がちゃんと引き継げるように、今この1回目が非常に大事だと考えている。

委員：内容はあまり問題ないと思うので、このままやってもらえばいいと思う。提案だが、民生委員とかを入れてお茶の間カフェのような延長でやったらもっとうまくいくんじゃないか。

団体：おっしゃる通りで、今回本当は一区から全部の区長に声をかけて、ご賛同ご参画

いただけませんかとお願ひしたところ、マンパワー不足でお断りされてしまったという背景がある。三区は区長代理も本当はいないが参加していただいているということで、ぜひこれを起爆剤にしたい。四区の区長さんからは、もうギブアップが近いかもしれない、合体するしかないという声も上がっている、祭りもカフェも、最後は一つになればみんな柔軟に対応できると思う。民生委員さんもこのステージに立っていただいて、協力していただくというのは内容に入っている、その辺は柔軟に対応していこうと思っている。

委員:今までこれ以外に、町会として何か年間通してイベントはあったか。

団体:グランドゴルフ愛好会が最近発足しその中でイベント等をやっているが、地域の活動自体は高齢化、孤立化で減少傾向。他の事業はなかった。例えばカラオケ愛好会が3人いたのが1人になり解散するとかそういったことがあったので、私がそれを考慮して祭りでステージを作り、音楽イベントも盛り込んで作ったという背景がある。

委員:地域の目玉、足元に眠る宝、そういったものが何かあれば、後世に伝えていくことに繋がるのではないかと思うが、地域の宝があるか。

団体:藤久良というのは、椿森・本村・藤久良町一区二区三区四区の、東部区長会という団体というか、宝泉地区でもそのグループでやらせていただいている。椿森は藤阿久町だが椿森単体のお祭り、本村も単体でやっている。我々藤久良も東部区長会で呼ばれるが、お邪魔するだけで私たちもお呼びすることがないということで、私の副担当部長のときに、復活させてやりたいということで去年やらせていただいた。椿森には八木節の団体があり、その4団体を呼んでステージで披露していただいて、この地元の八木節があるということ、その地域の子供たちやお年寄りに見ていただくということが一つ。今年はフラダンス愛好会があり、これ椿森も本村も根付いているが、私達藤久良のメンバーの方もいるので披露していただいて、勧誘も含め今後文化としてつないでいくことが一つ。あと、音楽をやっている子供たちが比較的この藤久良には多く、バイオリンを地元で披露するタイミングがないのでステージを作ってあげようというもの。

元々そこに伝わる神社のお祭りではなくて、イベントという感じ。藤久良には神社がない。本村は神社のお祭りがある。椿森にも児童公園があり、椿森のお祭りというより、地藏町とお地藏様を祀るお祭りになっている。対して藤久良は昔の集合住宅で、中島飛行場の後の他から移ってきた人たちで、なかなかその地域の文化というのがないのが現状。なのでこのような提案をさせていただいた。

委員:団体名が藤久良町二区になっているが、実行委員会か何かを組織して、年間で管理して、これから大きくしていかないと続かないのではないか。会員が30人になっているが。

団体:この1%まちづくり事業が採択にならなかった場合も想定しており、その場合は藤久良単体でやるしかなく、去年のメンバーが33人だったので30人とした。採択になる場合、三区の同意は得ており、協力可能なのが40人くらいで、全部で70人でやろうという

う組織図はできている。

委員: 予算の関係は多少いろいろあるとしても、その意欲と、町をまとめていこうという、何とか成功させるような方向で、今日も委員の方々からいろんなアドバイスも出ているので、これから組み込めるものを組み込んで、ぜひ成功させてもらうような方向でやってもらいたいと思う。

委員: 前年の決算書の予備費がかなりの金額だが。

団体: コロナ禍でイベントができず、区費が溜まり、450 万円になってしまった。それをどう消化するか話し合った結果その一部をいただこうと。この予備費は単純に繰越金。本当は 150 万円ぐらいでプールしていこうという、そもそも論があるが、それでも私の担当のときには区費を半額、上期下期だったら下期をゼロにして、増やさないようにはしたが、それでも溜まってしまったので。

委員: 昨年やった時、二区は 192 軒ぐらいか。

団体: 世帯数は 195 世帯だった。

委員: 寄附金はあるか。

団体: 1 軒当たりいくらでお願いするのではなく、あくまで任意で、来ていただいた方から。去年は企業協賛をお願いできなかった。やると決めてから、寄付金をいただきに伺うということができなくて、その分マンパワーもなかった。去年は現金の寄付金が 11 万 8000 円あった。他に私がステージを寄付したり、他のものを寄付したりとか、現物で寄付してくれる方もいた。今回は拡大してやるのでその希望感を少し膨らませて寄付金を 15 万に想定した。

委員: 先程、予算がだいぶ残っているとのことだった。私の地区は納涼祭をやるほとんどなくなる。今 450 万円残っているという、今まで何でやらなかったのか疑問を持つのと、実際に来られた方が 100 名と書いてあって、それを成功というかどうかと私は思う。うちの地区も同じようなことやっているが、若い方が増えたり参加する方の考えもいろいろあって、縮小された。育成会のお祭りがあると言っていたが、今うちの地区でも育成会主体の本当に細々とやってるイメージになっていて。やっていることは盛大に見えるが、実際には写真を見ても、育成会の規模からあまり広がっていないのではないかとイメージを受けた。

団体: 残念ながら育成会は今年で解散するそうだ。去年も 6 人しか子供がおらず、私は保護者側にいたが、集会所に 6 人集まって、保護者が 6 人いて、金魚すくいとスーパーボールすくいをやった。私は参加して初めて他区のお祭りとの差にびっくりして、これは復活しなければいけないと思った。

以前なかったのかということに対する回答になるが、実は藤久良二区は、昔は有志会があり、その有志会の方々、いわゆる個人事業主の方が集まって、その寄付で小規模のお祭りをやっていた。そのときは、1 人当たり 5 万円ずつ寄付し合っていてという実績が確かにあった。ただその後、区と揉めてしまい、その有志会が解散して、

その率先者がいなくなったということでお祭りが消滅してしまった。その時の一部の人
たちを巻き込んで、私達でもう一度始めませんかというのが今回のあらまし。なので小
規模でも育成会ではやっているが、去年はおかげさまで開催できたので今年は一緒
にやりましょうということで、精査していただいたという背景がある。

委員:テント7張りということはほぼ全体に張るというイメージか。

団体:去年は5張りで足りなかった。今年は三区も入るし、来賓やお客さんも多くなること
を想定して、7張りで設定した。区のテントを設営して、プラスお借りするのが7張り。全
部で10張り。桜を切ったので、公園にはブランコしかない。去年も結構縮小でやった。
テントのサイズは一番大きいタイプ。

委員:10張りはちょっと逆に多いかもしれない。場所を見に行ったが、10張りあったら動
けないかも。

団体:昨年は、4張りは模擬店で埋まってしまって、来賓の方に2張り用意したが座るテ
ーブルも椅子ではなくて、立ちになったのでそれも想定した。

委員:9月27日に行い、時間は?

団体:11時半から始めて19時までの予定。その前後に用意があるが、ステージとしては
お昼から夜、夕方暗くなるまでを予定している。

委員:暑かったらテントがあった方が日陰になるということですね。私はこの祭りそのもの
には大賛成なのでぜひやっていただきたいとの前提で質問させてもらう。なぜ複数地
区でやろうと思ったか。

団体:1%事業の祭りは、複数行政区でないと対象にならないということだったので。

委員:1%まちづくり事業の祭りは、複数の行政区でないと対象とならないというのは、私自
身非常に疑問。複数でないとなぜ祭りができないか。地区一大イベントだから、いくら
かでも出してあげるのが、この1%の趣旨かなと思っている。採択されても、見合うような
金額が出なかった場合は、どうするか。

団体:提出した以上、やる意気込みでもちろんやっている。採択いただいたものを柔軟に
活用しつつ事業を行おうと考えている。

委員:400万ぐらいの予備費の話があった。これは区費の中で、区の事業と祭りの事業を
やって、それを同時に決算してるということで、コロナ禍が3年あったから、これで残金
がたまったということですね。うちも全く同じ現象が起こった。ただ、うちはお祭りをやっ
ている。世帯数も人間の数も藤久良二区三区合わせてうちの方が多と思う。写真
を見ても大体祭りも同じようなことをやってる。みんな来てくれる。ありがたいです。1年
に1回やるのは非常にいいことじゃないか。だけど、どう見ても金額がすごく高い。1%
なら、いかに金が取ればいいのかということに知恵を絞った形での提案になっている感
じがする。正直に、どうしてもこれだけ足りないからこれを面倒見てくれ、俺たちは一生
懸命汗かいてその分下げると、いわゆるそれが採択という金額になると思う。そうしてい
ると、皆さんの努力が地域の人たちに伝わり楽しい祭りだなとなってくるんじゃないか。

どんどん華美になっていけばいくらでも金をかけられるが、それは知恵の使い方が違う。我々とのまちづくりはそんなに変わらないが金額は違う。何が違うかという、うちは櫓は自分たちで作った。櫓があるのでそれを全部運んで自分たちで建てる。だからレンタルじゃない。だから違うのかと思った。だけどレンタルでないとできないというのはある。うちの櫓もいつ崩れるかわからないという話も出ている。ただこれも検討する材料になってくるが、地域でできること、地域に有力者もいるだろうし、お金を持ってる人もいるだろうし、金はなくても参加して手伝うという人もいるだろうし、そういう人たちの力を借りて、何か祭りを存続できるようなこと、そして少しぐらい面倒見てもらおうという機運作りをして継続してもらえるとありがたいと思う。身の丈でやるのが一番楽しいと思う。

団体:本当にその通りだなと思う。昔、有志会の方々がやってた時、単管パイプの櫓を組んでいた。私が小さい頃の藤久良の祭りもそうだった。ただそれを設営する人が去年はいなかった。集まった 30 人ですら夫婦共働きで、その前日の櫓作りから何から、基本的にはいなかった。当日お手伝いしてくれた方は十分いたが、それなりに身の丈というか、その本当のコアメンバーは 10 人を切っていてその中で何ができると言ったときに、買い出しやろうとか、そういうことでやったというのが本音の部分で、どうやったらまともなお祭りできるんだと。そのお祭りを復活するのにどうしたらいいんだという会議が 3 回ぐらい続き、私も区長会で区長の立場で、周りの区はどうやってお祭り運営してるのか話していたところ、マンパワーがなかったらイベント会社使ったらどうだというアドバイスをいただき、そのアドバイス通りやったら去年の形になった。3 倍というのは申請するにあたって数をカウントしたところの実績なので、欲をかいたつもりはない。

委員:当日の 70 人の作業はどういう内訳か。

団体:組織図が別にあるが、受付、模擬店、誘導、あとそのお祭りを運営する人たちの集まり。

委員:当日に何を準備するのか。

団体:焼きそば焼いたり、椅子は集会所から持ってくるし、イベント会社から借りるものもある。自分たちのものは自分たちでテントを組み立てたり、それを前日にして、当日の 70 人は、受付や模擬店や周りの誘導など、祭りを運営する人。

委員:アドバイスだが、お祭りと考えないで、要するにボーイスカウトでいうジャンボリーと言うが、そんな気持ちでやった方が楽なんじゃないか。それともう一つは、太田のスポレクはいろいろな店が出てバラエティーに富んで参考になる。あと、長野県の上田わっしょいというお祭りがあるので、参考にしてほしい。

団体退席後審議

委員:相当苦勞していると思う。大体は賛成だ。

委員:イベントのプログラムや組織図があると、何をやるかがわかりやすい。

委員:いろいろ聞いたら、自治会の役員も出せないような状況で今苦しんでいる。ここに集まってる人たちから考えると、どうして実行委員会ができないのか、どうして何ができないのか、そういう疑念は私も思う。でもそこで押さえると、多分パンクしちゃうんじゃないか。そこは少し英断を持って。

委員:私が知ってる範疇では、藤久良という町が中島の昔の住宅。多分構想通りはいかないと思うが、この苦勞をみんなで応援してあげたい。

委員:いろんな意見があって、その意見というのは、これを実行させるためのアドバイスになっていくと思うが、それは大いに出していただいて、何とかできる方向で賛同しながら、やっていったらどうかというのが私の意見。

委員:要するに高齢化。まずどこでもみんなもう年寄りじゃないか。それで TENT を張るのは結構大変。しまうのも大変。だからこういうイベントでやるときに、業者に頼んで、その辺は市の予算を使わせてもらって、中のイベントは自分たちでやろうという方向に行くんだろうなと自分は思う。

委員:私は逆。今の藤久良はだいぶ新しいうちができて結構若い方が増えている。実際に自分たちが関わってるもので、年取ると自分たちではできないとあったが、TENT 張り作業を一緒にやることで馴染むし、それが基本だと思う。自分たちでやらなかったら全然力がまとまらない。みんなが苦勞してやったというのがなければ続かないと思う。ただイベント会社が儲かる。

委員:世代が変わると考え方がすごく違う。我々の昔の考え方と今の考え方は全然違う。だから若い人に合わせていくような形にしないと参加してもらえない。いかに参加してもらうかを考えないといけない。あと、暑さも全然昔と違う。少しはそういう大変なところは、市が支援する方がいいのかな。

委員:宝泉地区は市の体育祭でもすごく元気で、綱引きなんてすごい。そういう元気な方を実行委員長の方がどんどん引っ張って、そういう方をどんどん巻き込んでいく。

委員:あと、三区がどこまで関わるかが心配でしょうね。

委員:アドバイスということで、事務局側から伝えていただくのがよいかと思うが、身の丈でやってもらえるのが、村のためにもなるし、長続きするためにはそうしないと駄目だと思う。

委員:1%まちづくり事業を看板なり、パンフレットに入れてくださいということを教えてください。来年は今年の結果次第だと思う。

委員:汗かいてる分には金を出すけど、書いてないものに出す必要はないということじゃないかな。実際の補助金額を決定する事務局には、採択通知を送る際に、できるだけ皆さん汗をかいてください。なるべく減らして自分たちでできないところを市の方で援助しますよと伝えてください。

委員長より採決が諮られ、【採択】と決定した。

No.125

事務局: スポットクーラーが新規申請となるが、他の借用料と同様に 50%とするか、熱中症対策のため、安全対策に関わる経費として 100%にすべきか。

委員: 熱中症対策という観点だとかあるいは命にも関わるから 100%でもいいと思う。安全対策上必要なものなので。

委員: 50%で私はいいと思う。

委員: この採択基準って何? 備品購入費とか消耗品費とかいろいろ、基準ではあくまでそういうものは出しませんと書いてある。

委員: この会議は、血も涙もある会議なんですよ。その団体がやるためにこういうことが必要なんだということが出てきたので、それを我々がどうするかということでやる会なのであって、今おっしゃるように、全て基準でやるのであれば、いらなくなる。そうでなくて、市民の皆さんがどう考えるか。今の世の中の動きに対して、皆さんどう考えるかを汲んで進めていると思う。

事務局: 対象とするか、対象としないかについては、基準をもとにしている。例えば、スポットクーラーで言えば、基準の中の「使用料および賃借料」の項目になり、「お祭りやスポーツ大会等の基準は別に定める」となっている。お祭りの基準は、21 ページにある「お祭り等の規模と基準」というところで、その対象経費のところに「会場設営、業者委託の使用料および賃借料、印刷製本に係る人を基準に 2 分の 1 以内とする」となっているので、この使用料および賃借料ということで、50%で算定するか、その下に「安全対策に係る必要経費は 100%とする」とあるので、どちらにすればいいかというところを今皆さんに確認させていただいている。

委員長: 今の事務局からの説明で、熱中症対策によるということの安全対策という意味で、100%の補助ということでよろしいか。

委員長より採決が諮られ、【採択】と決定した。

No.126

特に質疑はなく委員長より採決が諮られ、【採択】と決定した。

No.127

10 万円未満のため事務局採択案件

委員: 採択でいいが、せっかくお年寄りが毎回水やりとかしているのだから、これだけで終わらずに、会館に最後集まるのだから、終わった後、社協の事業で補助金が出る事業があるから、集会所に集まって、その社協のお金を使わせていただいて弁当やジュース

を買ったり、そういうふうになると、喋る機会も出てきていいんじゃないか。
委員長:そのアドバイスを付け加えていただいて。

No.128

特に質疑はなく委員長より採決が諮られ、【採択】と決定した。

協議結果:3次募集【採択 5件】No.125～129

【不採択 0件】

※詳細は別紙のとおり

(2) その他

委員:現地視察の検討や基準の見直しはいつを予定しているか。

事務局:現地視察は今のところ委員より希望は出ていないが、来月くらいに事務局で案を出したい。基準の見直しは、案件が少なくなってきたら、2～3回かけて見直していきたい。

4. 閉会